I·O DATA

PCカード規格準拠 V.90採用
56Kbpsインターネット・モデムPCカード

PCML-560ER セットアップガイド

B-MANU200518-01

本書では製品でインターネットなどをご利用になりたい場合などの詳細な手順は本書には記載されておりません。
詳細な説明はオンラインマニュアルをご覧ください。

「サポートソフト」をインストールする

（Windows XP/2000/Me/98の場合）

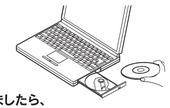
本製品を使用するには、「サポートソフト」CD-ROM内のドライバソフトをパソコンにインストールする必要があります。
ここでは、そのインストール手順について説明します。
インストール作業は、はじめて本製品を接続したときだけ行います。
次回からは、パソコンを起動すれば本製品を使用できます。

注意 まだ本製品を接続しないでください。

❶ Windowsを起動します。
Windows XPの場合はコンピュータの管理者でログオン、Windows 2000の場合はAdministrators権限でログオンします。

❷ 本製品を差し込まずに、パソコンの電源を入れWindowsを起動します。

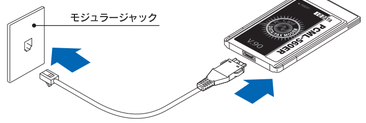
❸ サポートソフトディスクをCD-ROMドライブにセットします。



❹ 以下のメニューが表示されましたら、[PCML-560ERデバイスドライバ]をクリックします。自動的に表示されないときは、サポートソフトディスク内の[Autorun.exe]をダブルクリックしてください。

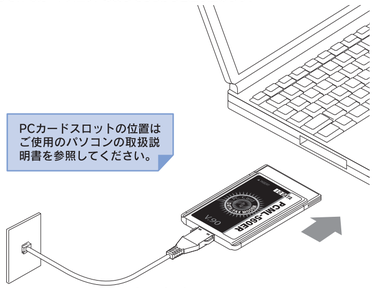
❺ [OK]ボタンをクリックします。
以降は画面の指示に従ってすすめてください。

❻ 添付の専用ケーブルで、電話回線（モジュラージャック）と本製品を接続します。
専用ケーブルを軽く引っ張って抜けないことを確認してください。
コネクタが入りにくいときは無理な方で挿入せず、コネクタの向き（裏表）を確認してください。



❼ 本製品をPCカードスロットに差し込みます。
ケーブルが本製品に接続されていることを確認後、本製品のラベル面を上にして、PCカードスロットの奥までしっかりと差し込みます。

PCカードスロットの位置はご使用のパソコンの取扱説明書を参照してください。



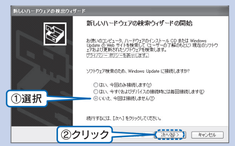
※ケーブルのプラグを持ってカードを差し込まないでください。

以降はお使いのOSにより手順が異なります。
各OSの個所へおすすみください。

Windows XPの場合

Windows XP Service Pack2での追加事項

Windows XP SP2では以下の画面が表示されます。
この場合は「いいえ、今回は選択しません」を選んでください。



Windows XPの場合(続き)

❶ 以下の画面が表示されたら、[ソフトウェアを自動的にインストールする]が選択されていることを確認して、[次へ]ボタンをクリックします。

❷ [I-O DATA PCML-560ER]を選択して、[次へ]ボタンをクリックします。

❸ [続行]ボタンをクリックします。

弊社製ソフトウェアが確認された時点で、マイクロソフトが認証するソフトウェアでは無いというメッセージが表示されますが、特に問題ありませんのでそのまま続行します。
➡ マイクロソフト社はWHQLという組織において、パソコン本体や周辺機器などを対象とした認定手続きを実施しております。このたびお買い上げ頂いた製品は現時点では認定を受けておりません。

❹ [完了]ボタンをクリックします。

以上でインストールは完了です。
次に正しくインストールされたか確認します。

確認する

❶ [スタート]→[マイコンピュータ]を右クリックし、表示された[プロパティ]をクリックします。

❷ [ハードウェア]タブをクリック後、[デバイスマネージャ]ボタンをクリックします。

❸ [デバイスマネージャ]画面の[モデム]をダブルクリックして[I-O DATA PCML-560ER]が表示されていることを確認します。また、表示の頭に[!]マークがないことも確認します。

[I-O DATA PCML-560ER]が表示されない、あるいは、[!]マークがある場合は…
オンラインマニュアルの[困ったときには]をご参照ください。

❹ 画面右上の[X]ボタンをクリックして、画面を閉じます。

これでサポートソフトが正しくインストールされていることが確認できました。次に発信情報を設定し、パソコンと正しく通信できるか確認します。

発信情報を設定する

❶ [スタート]→[コントロールパネル]を順にクリックします。

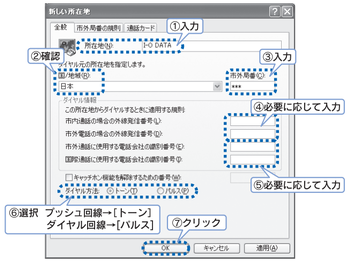
❷ [コントロールパネル]が"カテゴリ表示"になっている場合は、[クラシック表示に切り替える]をクリックします。

❸ [電話とモデムのオプション]アイコンをダブルクリックします。

❹ [新規]ボタンをクリックします。
以前に発信するための設定（所在地）を登録したことがある場合は、❺の手順へ進んでください。

❺ [全般]タブで必要な情報を設定して、[OK]ボタンをクリックします。

No.	項 目	設定内容
①	所在地	任意の名称（お好きな名称）を入力
②	国／地域	[日本]であることを確認
③	市外局番	ご使用になっている場所の市外局番を入力
④	外線発信番号	[0（ゼロ）発信]などの回線の場合に[0（ゼロ）]を入力 ※[キャッチホン機能を解除するための番号]チェックボックスには、チェックしないでください。
⑤	識別番号	必要に応じて入力 ※詳細はご加入の電話会社にご確認ください。
⑥	ダイヤル方法	電話回線に ■プッシュ回線をお使いの場合→[トーン]を選択 ■ダイヤル回線をお使いの場合→[パルス]を選択

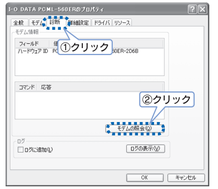


❻ [電話とモデムのオプション]画面で[モデム]タブをクリック後、[I-O DATA PCML-560ER]をクリックし、[プロパティ]ボタンをクリックします。

[I-O DATA PCML-560ER]が表示されない、あるいは、[!]マークがある場合は…
オンラインマニュアルの[困ったときには]をご参照ください。

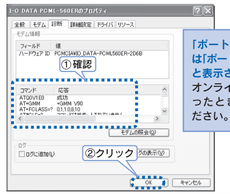
本製品がCOM3に割り当てられている例です。使用しているパソコンの環境により、COM番号は変わります。

❼ 本製品とパソコンが正常に通信できるかを確認します。
[診断]タブをクリックして、[モデムの照会]ボタンをクリックします。



❽ 「お待ちください」と表示されます。
次の手順の画面が表示されるまで、そのままでお待ちください。

❾ しばらくすると以下のように表示されます。
確認後、[OK]ボタンをクリックします。
※[コマンド]［応答］の部分が異っ白てなく、[AT---]と英数字が表示されたら正常です。



「ポートが開けません」または「[ポートが開かれています]と表示された場合は…
オンラインマニュアルの[困ったときには]をご参照ください。

注意
- この通信テストはパソコンと本製品間のテストであり、電話回線を介して通信するテストではありません。
- [応答]欄に[コマンドはサポートされていません]と表示されていますが、動作上問題ありません。

❿ [OK]ボタンをクリックし、[電話とモデムのオプション]画面を閉じます。

以上で、発信情報の設定は終了です。

Windows 2000の場合

❶ 以下の画面が表示されましたら、[はい]ボタンをクリックします。

弊社製ソフトウェアが確認された時点で、マイクロソフトが認証するソフトウェアでは無いというメッセージが表示されますが、特に問題ありませんのでそのまま続行します。
➡ マイクロソフト社はWHQLという組織において、パソコン本体や周辺機器などを対象とした認定手続きを実施しております。このたびお買い上げ頂いた製品は現時点では認定を受けておりません。

以上でインストールは終了です。
次は正しくインストールできたかを確認します。

確認する

本製品をPCカードスロットに挿入したままで確認してください。

❶ [マイコンピュータ]を右クリックして、[プロパティ]をクリックします。

❷ [ハードウェア]タブをクリックし、[デバイスマネージャ]ボタンをクリックします。

❸ [デバイスマネージャ]画面の[モデム]をダブルクリックして、[I-O DATA PCML-560ER]が表示されていることを確認します。
また、表示の頭に[!]マークがないことも確認します。

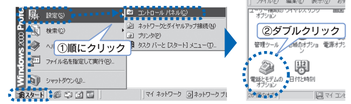
[I-O DATA PCML-560ER]が表示されない、あるいは、[!]マークがある場合は…
オンラインマニュアルの[困ったときには]をご参照ください。

❹ 画面右上の[X]ボタンをクリックして、画面を閉じます。
2の手順の画面に戻りますので、[OK]ボタンをクリックして画面を閉じます。

これでサポートソフトが正しくインストールされていることが確認できました。次に発信情報を設定し、本製品とパソコンが正常に通信できるかを確認します。

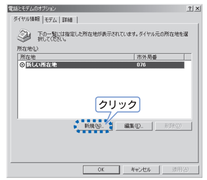
発信情報を設定する

❶ [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]を順にクリックし、[電話とモデムのオプション]アイコンをダブルクリックします。



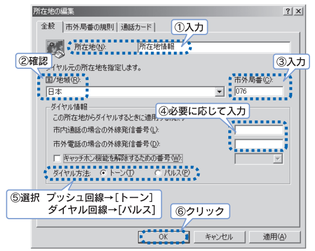
Windows 2000 の場合（つづき）

❷ [新規]ボタンをクリックします。
以前に発信するための設定（所在地）を登録したことがある場合は、❺の手順へ進んでください。



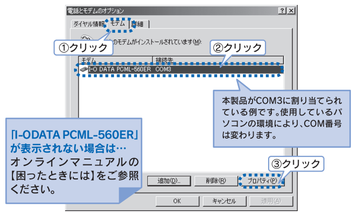
❸ [全般]タブで必要な情報を設定して、[OK]ボタンをクリックします。

No.	項 目	設定内容
①	所在地	任意の名称（お好きな名称）を入力
②	国／地域	「日本」であることを確認
③	市外局番	ご使用になっている場所の市外局番を入力
④	外線発信番号	「0（ゼロ）発信」などの回線の場合に「0」（ゼロ）を入力 ※「キャッチホン機能を解除するための番号」チェックボックスには、チェックしないでください。
⑤	ダイヤル方法	電話回線に ■プッシュ回線をお使いの場合→[トーン]を選択 ■ダイヤル回線をお使いの場合→[パルス]を選択

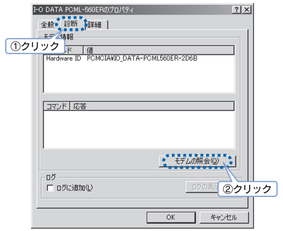


❹ [OK]ボタンをクリックし、[電話とモデムのオプション]画面を閉じます。

❺ 「電話とモデムのオプション」画面で[モデム]タブをクリック後、[I-O DATA PCML-560ER]をクリックし、[プロパティ]ボタンをクリックします。

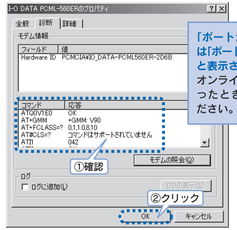


❻ [診断]タブをクリックして、[モデムの照会]ボタンをクリックします。



❼ 「お待ちください」と表示されます。次の手順の画面が表示されるまで、そのままでお待ちください。

❽ しばらくすると以下のように表示されます。確認後、[OK]ボタンをクリックします。
※[コマンド]［応答］の部分が真っ白でなく、[AT---]と英数字が表示されたら正常です。



注意
- この通信テストはパソコンと本製品間のテストであり、電話回線を介して通信するテストではありません。
- [応答]欄に［コマンドはサポートされていません］と表示されていますが、動作上問題ありません。

❾ [OK]ボタンをクリックします。

ここまでで、本製品がパソコンに正しく認識され、使用できることが確認できました。
1度これらのインストールや設定を行えば、今後はパソコンを起動するだけで使えるようになります。

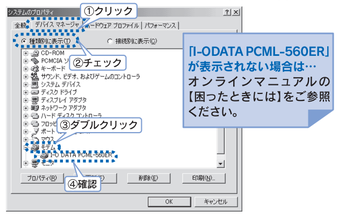
インターネットに接続する場合は、オンラインマニュアルの【インターネット接続】をご覧ください。

Windows Me/98 の場合

本製品をPCカードスロットに挿入したままで確認してください。

❶ [マイコンピュータ]を右クリックして、[プロパティ]をクリックします。

❷ [デバイスマネージャ]タブをクリックし、[種類別に表示]をチェックし、[モデム]をダブルクリックして、[I-O DATA PCML-560ER]が表示されていることを確認します。



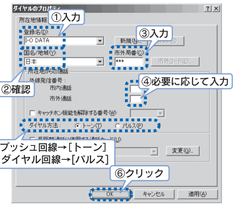
発信情報を設定する

❶ [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]を開き、[モデム]アイコンをダブルクリックします。

❷ [I-O DATA PCML-560ER]をクリック後、[ダイヤルのプロパティ]ボタンをクリックします。
以前に発信するための設定（所在地）を登録したことがある場合は、❺の手順へ進んでください。

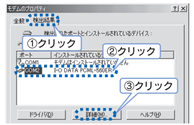
❸ 必要な情報を設定し、[OK]ボタンをクリックします。

No.	項 目	設定内容
①	登録名	任意の名称（お好きな名称）を入力
②	国名／地域	「日本」であることを確認
③	市外局番	ご使用になっている場所の市外局番を入力
④	外線発信番号	「0（ゼロ）発信」などの回線の場合に「0」（ゼロ）を入力 ※「キャッチホン機能を解除するための番号」チェックボックスには、チェックしないでください。
⑤	ダイヤル方法	電話回線に ■プッシュ回線をお使いの場合→[トーン]を選択 ■ダイヤル回線をお使いの場合→[パルス]を選択



❹ [OK]ボタンをクリックし、[ダイヤルのプロパティ]画面を閉じます。

❺ 次に本製品とパソコンが正常に通信できるかを確認します。[検出結果]タブをクリックし、[I-O DATA PCML-560ER]が表示されているポート（画面例ではCOM2の部分）をクリック後、[詳細]ボタンをクリックします。
※COMの後の数字はお使いの環境によって異なります。



本製品がCOM2に割り当てられている例です。使用しているパソコンの環境により、COM番号は変わります。

❻ [モデムと通信しています]と表示され、しばらくして以下のように表示されたら[OK]ボタンをクリックします。
※[コマンド]［応答］の部分が真っ白でなく、[AT……]と英数字が表示されたら、本製品は正常に認識されています。

注意
- この通信テストはパソコンと本製品間のテストであり、電話回線を介して通信するテストではありません。
- [応答]に［ERROR］と表示される場合がありますが、動作上問題ありません。

❼ [OK]ボタンをクリックし、[モデムのプロパティ]画面を閉じます。

ここまでで、本製品がパソコンに正しく認識され、使用できることが確認できました。
1度これらのインストールや設定を行えば、今後はパソコンを起動するだけで使えるようになります。

インターネットに接続する場合は、オンラインマニュアルの【インターネット接続】をご覧ください。

デジタルライフの夢を拡げる
株式会社 アイ・オー・データ機器
本社サポートセンター：〒920-8513 石川県金沢市桜田町2丁目84番地
ホームページ：http://www.iodata.jp/support/

Copyright © 2006 I-O DATA DEVICE,INC. All Rights Reserved.
2006.2.17 発行